



コールパーク

コールパーク機能を使用すると、コールを保留にし、Cisco Unified CallManager システム内の別の電話機（たとえば、別のオフィスや会議室の電話機）からそのコールに応答することができます。電話機でアクティブなコールを受けているときに、[パーク] ソフトキーまたは コールパーク ボタンを押して、そのコールをコールパーク内線番号にパークすることができます。システム内の別の電話機から誰かがそのコールパーク内線番号をダイヤルすると、そのパークされているコールを取得できます。

コールパーク内線番号として、1つの電話番号またはある範囲の電話番号を定義できます。各コールパーク内線番号でパークできるコールは1つだけです。

この章では、コールパークに関する次の情報を提供します。

- [コールパークの概要 \(P.9-2\)](#)
- [コールパークのシステム要件 \(P.9-5\)](#)
- [インタラクションおよび制限事項 \(P.9-6\)](#)
- [コールパークのインストールとアクティブ化 \(P.9-8\)](#)
- [コールパークの設定 \(P.9-9\)](#)
- [コールパークのサービス パラメータの設定 \(P.9-10\)](#)
- [コールパーク番号の検索 \(P.9-10\)](#)
- [コールパーク番号の設定 \(P.9-11\)](#)
- [コールパーク番号の削除 \(P.9-13\)](#)
- [関連項目 \(P.9-15\)](#)

コールパークの概要

コールパーク機能は Cisco Unified CallManager クラスタ内で動作します。クラスタ内の各 Cisco Unified CallManager にコールパーク内線番号が定義されている必要があります（クラスタ間でコールパークを使用する方法については、P.9-3 の「クラスタ間でのコールパークの使用」を参照してください）。コールパーク内線番号として、1つの電話番号またはある範囲の電話番号を定義できます。電話番号または番号範囲は固有である必要があります。

有効なコールパーク内線番号は、整数とワイルドカード文字（X）から構成されます。最大2桁のワイルドカード文字（XX）を設定できます（たとえば、80XX）。XXを設定すると、最大100個のコールパーク内線番号が提供されます。コールがパークされると、Cisco Unified CallManager は、次に使用可能なコールパーク内線番号を選択し、電話機にその番号を表示します。

Cisco Unified CallManager では、各コールパーク内線番号に、コールを1つだけパークすることができます。



(注)

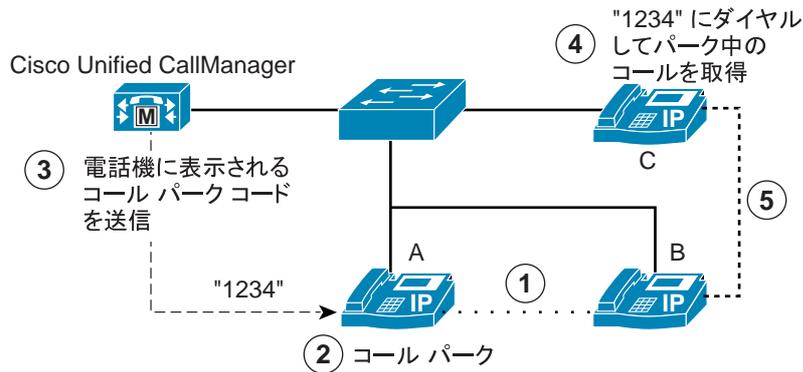
ユーザがクラスタ内のサーバ間でコールパークを使用する場合は、クラスタ内の各 Cisco Unified CallManager サーバにコールパーク内線番号を設定してください。設定の詳細については、P.9-11 の「コールパーク番号の設定」を参照してください。

コールパーク機能の使用

図 9-1 に、コールパークのプロセスを示します。

1. 電話機 A のユーザが電話機 B にコールします。
2. 電話機 A のユーザが、プライバシーのため会議室で通話するとします。電話機 A のユーザは [パーク] ソフトキーを押します。
3. 電話機 A が登録されている Cisco Unified CallManager サーバは、最初に使用できるコールパーク電話番号 1234 を送信します。この番号は、電話機 A に表示されます。電話機 A のユーザは、コールパーク電話番号を確認します（電話機 C でその電話番号をダイヤルできます）。
4. 電話機 A のユーザはオフィスを出て、使用できる会議室に行きます。その会議室の電話機は、電話機 C として指定されています。ユーザは電話機 C をオフフックにし、1234 をダイヤルして、パークされたコールを取得します。
5. システムによって電話機 C と電話機 B の間にコールが確立されます。

図 9-1 コールパークのプロセス



- 初期の流れ ①
- コールパークコード
- 最終的な流れ ⑤

141814

クラスタ間でのコールパークの使用

ユーザは、割り当てられたルートパターン（たとえば、クラスタ間トランクのルートパターンとしての 80XX）とコールパーク番号（たとえば 8022）をダイヤルして、パークされたコールを別の Cisco Unified CallManager クラスタから取得できます。また、コーリングサーチスペースとパーティションが正しく設定されていることを確認してください。次の例を参照してください。

パークされたコールを別のクラスタから取得する例

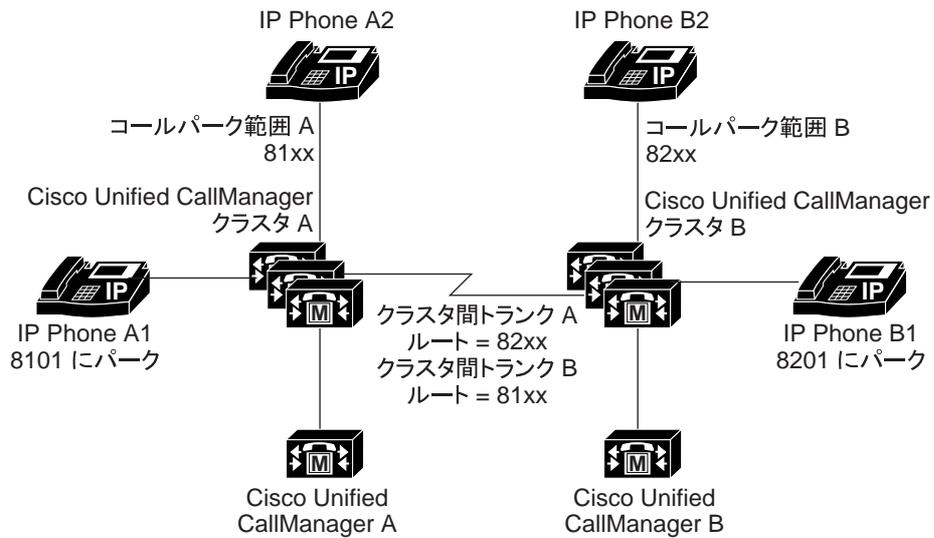
ネットワークに 2 つのクラスタ（クラスタ A とクラスタ B）があります。クラスタ A にはユーザ A1 とユーザ A2 があります。クラスタ B にはユーザ B1 とユーザ B2 があります。

クラスタ A には、81xx の範囲のコールパーク番号が設定されています。クラスタ B には、82xx の範囲のコールパーク番号が、管理者によって設定されています。

クラスタ A には、他のクラスタのパーク範囲へのルートパターンとして 82xx が設定されています（クラスタ B へのルート）。クラスタ B には、他のクラスタのパーク範囲へのルートパターンとして 81xx が設定されています（クラスタ A へのルート）。

ユーザ A1 が 8101 にコールをパークすると、ルートパターン設定により、クラスタ A とクラスタ B 内のすべてのユーザ（正しいパーティションが設定された）が、パークされたコールを取得できます。ユーザ B1 が 8202 にコールをパークすると、ルートパターン設定により、クラスタ A とクラスタ B 内のすべてのユーザ（正しいパーティションが設定された）が、パークされたコールを取得できます。図 9-2 を参照してください。

図 9-2 クラスタ間トランクによる、パークされたコールの取得



例 1

1. A1 と A2 が通話していて接続中である
2. A1 が 8101 にコールをパークする
3. B1 が 8101 にダイヤルすると、コールはクラスタ A にルートされる

例 2

1. B1 と B2 が通話している
2. B1 が 8201 にコールをパークする
3. A1 は 8201 にダイヤルすると、パーク中のコールを取得できる

クラスタ間トランク A は、ルート 82xx を利用して、クラスタ B へアクセスする
 クラスタ間トランク B は、ルート 81xx を利用して、クラスタ A へアクセスする

注： ユーザは、パークされたコール番号を管理できません。
 コール番号は、システムによって割り当てられます。

141815

コールパークのシステム要件

コールパークが動作するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified CallManager 5.0

次の SCCP 電話機および SIP 電話機は、Standard User と Standard Feature ソフトキー テンプレートの [パーク] ソフトキーでのコールパークをサポートしています。

- Cisco Unified IP Phone (モデル 7941、7961、7970、7971)

次の SCCP 電話機は、Standard User と Standard Feature ソフトキー テンプレートの [パーク] ソフトキーでのコールパークをサポートしています。

- Cisco Unified IP Phone (モデル 7905、7912、7920、7940、7960)

次の SCCP 電話機は、電話ボタン テンプレートの Call Park ボタンによるコールパークをサポートしています。

- Cisco Unified IP Phone モデル 30 (30 SP+ および 30 VIP)
- Cisco Unified IP Phone モデル 12 (12 S、12 SP、12 SP+)
- Cisco Unified IP Phone モデル 7910

インタラクションおよび制限事項

次の項では、コールパークにおけるインタラクションおよび制限事項について説明します。

- [インタラクション \(P.9-6\)](#)
- [制限事項 \(P.9-7\)](#)

インタラクション

次の各項では、コールパークが Cisco Unified CallManager アプリケーションおよびコール処理とどのように通信するかを説明します。

- [CTI アプリケーション \(P.9-6\)](#)
- [Music On Hold \(P.9-6\)](#)
- [ルートプラン レポート \(P.9-6\)](#)
- [コーリング サーチ スペースとパーティション \(P.9-6\)](#)
- [即時転送 \(P.9-7\)](#)
- [割り込み \(P.9-7\)](#)

CTI アプリケーション

CTI アプリケーション (Attendant Console など) は、コールパーク DN のアクティビティの監視などのコールパーク機能にアクセスします。コールパーク DN を監視するには、アプリケーションまたは CTI アプリケーションに関連付けられたエンド ユーザを Standard CTI Allow Call Park Monitoring ユーザ グループに追加する必要があります。

詳細については、[P.16-17](#) の「[Cisco Unified CallManager Attendant Console の設定チェックリスト](#)」を参照してください。

Music On Hold

Music On Hold を使用すると、ユーザは、ストリーミング ソースから提供される音楽を使用して、コールを保留にできます。Music On Hold では、次の2つのタイプの保留を使用できます。

- ユーザ保留：ユーザが保留ボタンまたは [保留] ソフトキーを押すと、システムによってこのタイプの保留が呼び出されます。
- ネットワーク保留：ユーザが転送、会議、またはコールパーク機能をアクティブにすると、このタイプの保留が自動的に呼び出されます。

ルート プラン レポート

ルート プラン レポートには、Cisco Unified CallManager で設定されているパターンと電話番号が示されます。コールパークに電話番号を割り当てる前に、ルート プラン レポートを使用して、パターンと電話番号の重複を検索します。『*Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド*』の「ルート プラン レポート」の章を参照してください。

コーリング サーチ スペースとパーティション

デバイスのコーリング サーチ スペースに基づいてユーザによるコールパークへのアクセスを制限するには、コールパーク電話番号または範囲をパーティションに割り当てます。『*Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド*』の「コーリング サーチ スペースの設定」および「パーティションの設定」を参照してください。

即時転送

コールパークは即時転送（[即転送] ソフトキー）をサポートしています。たとえば、ユーザ A がユーザ B にコールし、ユーザ B がコールをパークしたとします。ユーザ B はコールを取得し、[即転送] ソフトキーを押してそのコールをボイスメール メールボックスに送信しました。ユーザ A に、ユーザ B のボイスメール メールボックスのグリーティングが再生されます。

割り込み

次に、コールパークでの割り込みと C 割り込みの違いについて説明します。

コールパークでの割り込み

発信先の電話機（割り込み先の電話機）がコールを制御します。割り込みの発信側は発信先の電話機に「ビジーバックキック」します。割り込み中でも、共通機能のほとんどが発信先の電話機に属しているため、割り込みの発信側は機能を利用できません。発信先がコールをパークした場合、割り込みの発信側はそのコール（割り込み）をリリースする必要があります。

コールパークでの C 割り込み

割り込みの発信先と発信側はピアとして動作します。C 割り込み機能は会議ブリッジを使用し、それをミーティング会議のように動作させます。両方の電話機（割り込みの発信先と発信側）がそれぞれの機能を完全に利用できます。

Q.SIG クラスタ間トランク

ユーザが Q.SIG クラスタ間トランクまたは Q.SIG ゲートウェイ トランクを越えてコールをパークすると、パークされた発信側（parkee）にパーク先番号メッセージが表示されません。電話機には、パーク前に接続された番号が表示されたままです。コールはパークされ、コールをパークしたユーザはコールを取得できます。パークされた状態からコールが取得されると、コールは継続しますが、パークされた発信側には新しく接続された番号が表示されません。

制限事項

コールパークには、次の制限事項があります。

- Cisco Unified CallManager では、各コールパーク内線番号に、コールを 1 つだけパークすることができます。
- 各コールパーク電話番号、パーティション、および範囲が Cisco Unified CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。
- デバイスを登録する各 Cisco Unified CallManager には、固有のコールパーク電話番号と範囲が必要です。
- Cisco Unified IP Phone 7902 はコールをパークできません（パークされたコールの取得しかできません）。
- Cisco Unified CallManager の管理機能は、コールパークの設定に使用するコールパーク番号または範囲を検証しません。無効な番号または範囲、および範囲がオーバーラップする可能性を特定するには、Cisco Unified CallManager Dialed Number Analyzer ツールを使用します。
- Cisco Unified CallManager の管理機能は、Call Park Reversion Timer に入力された値が Call Park Display Timer に入力された値より小さいかどうかをチェックしません。Call Park Reversion Timer に入力した値が Call Park Display Timer の値より小さい場合、コールパーク番号は電話機に表示されません。

設定の詳細については、P.9-11 の「[コールパーク番号の設定](#)」を参照してください。

コールパークのインストールとアクティブ化

システム機能のコールパークは、Cisco Unified CallManager ソフトウェアに標準で備わっています。この機能は、特にインストールする必要はありません。

コールパークの設定

この項の内容は次のとおりです。

- コールパークの設定チェックリスト (P.9-9)
- コールパークのサービスパラメータの設定 (P.9-10)
- コールパーク番号の検索 (P.9-10)
- コールパーク番号の設定 (P.9-11)
- コールパーク番号の削除 (P.9-13)
- コールパークのトラブルシューティング (P.9-14)

コールパークの設定チェックリスト

表 9-1 に、コールパークを設定する際のチェックリストを示します。

表 9-1 コールパークの設定チェックリスト

| 設定手順 | 関連手順と関連項目 |
|--|---|
| ステップ 1 コーリング サーチ スペース内にパーティションを持つユーザだけがパーティションを使用できるようにコールパーク内線番号のパーティションを設定します。 | 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定」 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「メディアターミネーションポイントの設定」 |
| ステップ 2 クラスタ内の各 Cisco Unified CallManager に対して固有のコールパーク番号を設定するか、コールパーク内線番号の範囲を定義します。 | コールパーク番号の設定 (P.9-11) |
| ステップ 3 適切な Cisco Unified CallManager グループに、コールパークで使用されるすべてのサーバを追加します。  (注) サーバと Cisco Unified CallManager は、インストール時に設定されます。 | 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified CallManager グループの設定」 |
| ステップ 4 コールパークにアクセスできる各デバイスに Standard User ソフトキーテンプレートを割り当てます。ソフトキーを使用できない電話機に対しては、Call Park ボタンのある電話ボタンテンプレートが自動的に設定されます。 | 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキーテンプレートの設定」 |
| ステップ 5 [ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウで、Standard CTI Allow Call Park Monitoring ユーザグループにアプリケーションとエンドユーザを割り当てます。これは、コールパーク監視機能を必要とする CTI アプリケーション (Attendant Console など) に関連付けられたユーザだけに適用されます。 | 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「ユーザグループへのユーザの追加」 |
| ステップ 6 コールパーク機能が使用可能であることをユーザに通知します。 | ユーザが Cisco Unified IP Phone でコールパーク機能にアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。 |

コールパークのサービスパラメータの設定

Cisco Unified CallManager には、コールパーク用に、Call Park Display Timer と Call Park Reversion Timer という 2 つのクラスタ全体のサービスパラメータが用意されています。各サービスパラメータではデフォルトが設定されているので、特別な設定は必要ありません。

- **Call Park Display Timer** : デフォルトでは 10 秒に指定されています。このパラメータは、コールをパークした電話機にコールパーク番号を表示する時間の長さを指定します。このタイマーは、Cisco CallManager サービスとコールパークが設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。
- **Call Park Reversion Timer** : デフォルトでは 60 秒に指定されています。このパラメータは、コールのパーク状態を継続する時間を指定します。このタイマーは、Cisco CallManager サービスとコールパークが設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。このタイマーが時間切れになると、パークされたコールは、コールをパークしたデバイスに戻ります。



(注) タイマーを設定するには、[システム] > [サービスパラメータ] を選択し、[Clusterwide Parameters (Device - General)] ペインの [Call Park Display Timer] フィールドと [Call Park Reversion Timer] フィールドを更新します。

コールパーク番号の検索

ネットワーク上には、複数のコールパーク番号が存在する可能性があるため、Cisco Unified CallManager は特定の条件に基づいて、特定のコールパーク番号を検索します。コールパーク番号を検索するには、次の手順を実行します。



(注) ブラウザセッションでの作業中、Cisco Unified CallManager の管理ページは、コールパーク番号の検索プリファレンスを保持します。他のメニュー項目に移動してこのメニュー項目に戻った場合、検索を変更するかブラウザを閉じない限り、Cisco Unified CallManager の管理ページによってコールパーク番号の検索プリファレンスが保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [コールパーク] を選択します。

[コールパーク番号の検索と一覧表示 (Find and List Call Park Numbers)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウンリストボックスを使用して、コールパーク番号を検索します。

ステップ 2 1 つめの [検索対象: コールパーク番号、検索条件:] ドロップダウンリストボックスから、次の条件のうち 1 つを選択します。

- 番号
- パーティション
- 説明
- Unified CallManager



(注) このドロップダウンリストボックスで選択した条件によって、検索で生成されるコールパーク番号のリストのソート方法が決まります。

2つめの [検索対象: コールパーク番号、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のうち1つを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ3 必要に応じて適切な検索文字を入力して、**[検索]** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の件数を指定できます。



ヒント データベースに登録されているすべてのコールパーク番号を検索するには、検索文字を入力せずに **[検索]** をクリックします。

検出されたコールパーク番号のリストが次の項目で表示されます。

- [コールパーク番号 (Call Park Number)] アイコン
- [コールパーク番号 (Call Park Number)]
- [パーティション (Partition)]
- [説明 (Description)]
- [Unified CallManager]

ステップ4 レコードのリストから、検索条件と一致するコールパーク番号をクリックします。

選択したコールパーク番号がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.9-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

コールパーク番号の設定

この項では、1つのコールパーク内線番号またはコールパーク内線番号の範囲を追加、コピー、および更新する方法について説明します。

手順

ステップ1 [コールルーティング] > [コールパーク] を選択します。

ステップ2 次のいずれかの手順を実行します。

- 新しいコールパーク番号を追加するには、**[新規追加]** をクリックします。
- コールパーク番号をコピーするには、P.9-10 の「[コールパーク番号の検索](#)」の手順を実行してコールパーク番号または番号の範囲を検索します。[コピー] アイコンをクリックします。

■ コールパークの設定

- コールパーク番号を更新するには、P.9-10の「[コールパーク番号の検索](#)」の手順を実行してコールパーク番号または番号の範囲を検索します。

[コールパーク番号の設定 (Call Park Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ3 適切な設定値を入力するか更新します (表 9-2 を参照)。

ステップ4 新規コールパーク番号または変更されたコールパーク番号をデータベースに保存するには、[保存] をクリックします。

追加情報

P.9-15の「[関連項目](#)」を参照してください。

コールパークの設定項目

表 9-2 に、コールパークの設定項目を示します。関連する手順については、P.9-15の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 9-2 コールパークの設定項目

| フィールド | 説明 |
|--|---|
| [コールパーク番号 / 範囲 (Call Park Number/Range)] | <p>コールパーク内線番号を入力します。数字列またはワイルドカード文字 X (システムでは1つまたは2つの X を使用できます) を入力できます。たとえば、5555 を入力すると1つのコールパーク内線番号 5555 が定義され、55XX を入力すると 5500 ~ 5599 のコールパーク内線番号の範囲が定義されます。</p> <p> (注) 1つのコールパーク範囲の定義で、最大 100 のコールパーク番号を作成できます。コールパーク番号は固有の番号にしてください。</p> <p> (注) Cisco Unified CallManager サーバ間でコールパーク番号が重複することがないようにしてください。各 Cisco Unified CallManager サーバの番号範囲は固有である必要があります。</p> |
| [説明 (Description)] | このコールパーク番号に簡単な説明を付けます。 |

表 9-2 コールパークの設定項目 (続き)

| フィールド | 説明 |
|---------------------------|--|
| [パーティション (Partition)] | <p>パーティションを使用してコールパーク番号へのアクセスを制限する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから希望のパーティションを選択します。コールパーク番号へのアクセスを制限しない場合は、パーティションに [<None>] を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用すると、このドロップダウン リスト ボックスに表示されるパーティションの数を設定できます。</p> <p> (注) リスト ボックス項目の最大数を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] を選択し、[CCMAdmin Parameters] の [Max List Box Items] フィールドを更新します。</p> <p> (注) コールパーク番号とパーティションの組み合わせが、Cisco Unified CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p> |
| Cisco Unified CallManager | <p>ドロップダウン リスト ボックスを使用して、コールパーク番号が適用される Cisco Unified CallManager を選択します。</p> <p> (注) 1 つのコールパーク範囲の定義で、最大 100 のコールパーク番号を作成できます。コールパーク番号は固有の番号にしてください。</p> <p> (注) Cisco Unified CallManager サーバ間でコールパーク番号が重複することがないようにしてください。各 Cisco Unified CallManager サーバの番号範囲は固有である必要があります。</p> |

コールパーク番号の削除

この項では、Cisco Unified CallManager データベースからコールパーク番号を削除する方法を説明します。

手順

- ステップ 1** P.9-10 の「[コールパーク番号の検索](#)」の手順を実行して、コールパーク番号またはコールパーク番号の範囲を検索します。
- ステップ 2** 削除するコールパーク番号またはコールパーク番号の範囲をクリックします。
- ステップ 3** [削除] をクリックします。



(注) コールパーク番号の横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすることによって、[コールパーク番号の検索と一覧表示 (Find and List Call Park Numbers)] ウィンドウから複数のコールパーク番号を削除できます。[すべてを選択] をクリックしてから [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのコールパーク番号を削除できます。

追加情報

P.9-15 の「関連項目」を参照してください。

コールパークのトラブルシューティング

表 9-3 に、よくあるコールパークの問題のトラブルシューティング リカバリのヒントを示します。

表 9-3 コールパークのトラブルシューティングのヒント

| 不具合の内容 | 推奨処置 |
|--|---|
| ユーザがコールをパークできません。ユーザが [パーク] ソフトキーまたは機能ボタンを押しても、コールがパークされません。 | クラスタ内の各 Cisco Unified CallManager に固有のコールパーク番号が割り当てられていることを確認してください。P.9-11 の「コールパーク番号の設定」を参照してください。 コールパーク番号に割り当てられたパーティションが、電話機の電話番号に割り当てられたパーティションと一致していません。P.9-11 の「コールパーク番号の設定」および『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定」の項を参照してください。 |
| コールパーク番号の表示時間が短すぎます。 | Call Park Display Timer の設定時間を長くします。P.9-10 の「コールパークのサービスパラメータの設定」を参照してください。 |

追加情報

P.9-15 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [コールパーク \(P.9-1\)](#)
- [コールパーク番号の設定 \(P.9-11\)](#)
- [コールパーク番号の検索 \(P.9-10\)](#)
- [コールパーク番号の削除 \(P.9-13\)](#)
- [コールパークのトラブルシューティング \(P.9-14\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタン テンプレートの設定」
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定」
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「メディア ターミネーションポイントの設定」
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「ルートプラン レポート」
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定」
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「ユーザグループの設定」
- 『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「クラスタ化」
- 『Cisco Unified IP Phone アドミニストレーションガイド for Cisco Unified CallManager』
- Cisco Unified IP Phone のユーザ資料とリリース ノート (すべてのモデル)

